

富田地区むらづくり運動推進協議会

1 基本データ

- 地区名 富田地区
- 人口 3,600人



- 面積 21.7k㎡
- 地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約4km南北約7kmに細長く広がる純農村地帯。

- 実施主体

富田地区むらづくり運動推進協議会

2 現状と課題

市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区民自らの手による活気ある地域づくりの推進に努めている。

しかしながら、各集落においては、区長を中心として様々な地域づくりに関する諸活動が行われているものの、広範囲に及ぶ富田地区全体としては、「花いっぱい運動」等の環境美化作業や「とみた夏まつり」以外には、主な地域づくり活動というものがなく、どちらかといえば、それらの活動が協議会としての一大行事でもあり、イベント終了後には活動が低調になってしまっている。



この状況を打破するため、他に何か地域が一体となるアクションが起こせないものかと日々模索しているところである。

3 事業の内容

去る8月4日、富田地区の12集落で構成する富田農地環境保全協議会が、国の「農地・水・環境保全向上対策事業」を活用し、生態系保全活動として富田小学校との連携により、生態系保全活動の一環として生き物調査を実施するため、富田公民館東側にビオトープを設置した。



ビオトープとは、いろいろな種類の生き物が、自分の力で生きていくことのできる自然環境を備えた場所のことで、子どもたちの環境教育や生活科・理科の学習の場として、また、命の営みと環境との関わりや安らぎを与える等の情操教育の場として大いに期待されている。

今回の設置にあたり、自然や生き物を学ぶ子供たちの良い教材になればと、近くの湿地で採取

した20種類の植物が移植され、近くの河川で捕まえた水生生物が放流されるなど、『ホタルがたくさん飛び交う空間になってほしい』と願いを込めて「ホタルの里ほのぼのひろば」と命名された。



7月に、区長会やむらづくり協議会に対し当該交付金事業の概要を説明するとともに、合わせてたたき台としての事務局(案)を提示し、意見を徴集した。ビオトープ設置直後から、これらの施設を活用して何かできないかという話しが公民館にもたらされた。

事務局(案)を基本として、関係機関と協議を重ねた結果、このビオトープを核とし富田跨線橋下の空間を一部利用し、隣接するJR越前富田駅の周辺を含めて、富田地区住民が集うことのできる「安らぎと憩いの場」として、一体的に整備を行うという計画を立て、区長会やむらづくり協議会に、『地域住民参加・協働による地域づくりの一助として、地域住民へ憩いの場提供と地域住民によるコミュニケーションの創出を図り、交流人口の1,200人増加を目指し当該事業を概ね3年間かけて実施する』という最終案を説明し承認を得た。



年度	事業実施内容
初年度	・休憩所の設置 ・その他付帯工事
2年度	・観察小屋の設置 ・JR越前富田駅舎右辺の花壇整備
3年度	・太陽光発電を利用した簡易照明の設置

また、ハードのみならず、当該一連施設を利用した自然観察会やホタル鑑賞会、花いっぱい運動等のソフト事業も展開し、以って地域の活性化に繋げていく予定である

4 事業の成果

最初の“地域住民参加・協働による地域づくり”のスタートとして、11月7日(日)午前8時30分より、松山和彦むらづくり運動推進協議会会長のあいさつの後、東屋の建設に着手した。



当日は、秋晴れに恵まれ、各集落の社会奉仕活動と日程が重なり参加者減が危惧されたにも関わらず、むらづくり運動推進協議会の中核を成す集落推進委員や支援と協力をお願いした各区長も参加し、「地域住民の憩いの場」の設置に向けて第1歩を踏み出した



東屋の建設には、専門的な知識と技術が必要とすることから、事前に建設部材の刻みと丁張・基礎工事を業者に発注し、また、安全面から、業者の指導・協力を受けながら作業を実施した。

当初は、ビオトープの“観察小屋”を予定していたが、観察小屋の建設には富田小PTAにも参加協力を依頼する予定から、今年度は事業実施期間も限られているため、東屋を先行実施とした。



翌週11月14日（日）には東屋の周りに、粉碎廃瓦の敷き込み作業を実施した。当日は、むらづくり講演会も開催されたため、講演会会場との二分化を余儀なくされたが、何とか10tの粉碎廃瓦を敷く作業を実施することができた。



なお、後日上野区長の協力により粉碎廃瓦の専用機械による転圧作業をしていただけたこととなった。

今回、区長やむらづくり協議会の集落推進委員の参加により、かねてから模索していた地域が一体となるアクションとして「地域住民の憩いの場」の設置に向けての第1歩を踏み出すことができた。

2週間にわたる一連の作業終了後、参加した区長や集落推進委員から、今後の管理のあり方についての意見が出され、来年度に計画を先送りしたビオトープ観察小屋も含めた施設一連の管理方法について、今後どのように進めていくのかといった協議がなされた。

その結果、非公式ではあるが、むらづくり運動推進協議会が中心となり、区長会、富田小学校、同PTA、富田公民館が参画した管理委員会を構築し、維持管理に係る費用も捻出しながら地域住民のために守っていくということを確認し合った。

現在の東屋については、雪に備えて既に雪囲いを取り付けてあり、実質的なオープンは来春となっているが、このように地域の活性化に繋げる施設の建設と、その将来にわたる維持管理についてまで協議が及んだことは、非常に意義のあることだと感じた。

5 今後の展望

公民館駐車場から、直に東屋が見えるため、地区住民からも「立派なものが見えたなあ。」とか「あれは何？」との問い合わせも寄せられている。事業内容を説明すると、「村の寄り合いで区長から聞いたあのことか。一帯をきれいに整備するらしいなあ。」と返事が来る。少しずつではあるが、地域の中にこの事業の趣旨が認識され、今後どうなるのかと興味を持ち始めた結果だと理解している。

今後は、ビオトープ（ホタルの里 ほのぼのひろば）において主に環境学習を実施する富田小

学校、同PTAにも参加を働きかけ、ビオトープを観察するための観察小屋を、むらづくり委員を中心として、引き続き区長や地区住民に参加・協力を呼びかけ建設する予定である。



さらには、このビオトープを核とし富田跨線橋下の空間を一部利用して、隣接するJR越前富田駅の周辺に花壇を造る計画で、これらを含めて、富田地区住民が集うことのできる「安らぎと憩いの場」として一体的に整備を進める予定である。

また、ハードのみならず、花壇の土づくりや花いっぱい運動をさらに推進するとともに、自然観察会やホタル鑑賞会等のソフトメニューも実施し、合わせて環境に対する意識の高揚と環境保全の推進、地域住民への憩いの場提供と地域住民によるコミュニケーションの創出を図り、以って地域の活性化に繋げていきたいと考えている。

